

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		児童発達支援センター すびか				公表日	令和8年 3月 30日		
						利用児童数	25名	回収数	18
		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
			はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18				外遊びができるスペースがもう少し広いと良いかも知れないが校外での活動を入れて下さり助かる。各部屋、通路、トイレなども広くてとてもよいと思います。	今年度より、1グループ5名程の小集団活動となり、スペースの広さや落ち着いた環境での支援提供に繋がりました。今後も、子どもが過ごしやすい室内環境の整備、工夫と職員間での連携を図っていきます。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	2	1	1	子ども1人に対して先生が1人付き添って下さり安心します。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1	1	1	バリアフリーで良い。情報伝達も早くて良い。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	2			いつも清潔なイメージです。		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	1			活動の中で。PTさんやSTさんも入られていることもありがたいです。	宮崎県総合発達支援センターホームページ上に公表されている支援プログラムを基に、子ども1人1人に合わせた個別支援計画書に合わせた継続的で連続性のある発達支援の提供を行いました。日々の支援の充実を図るため、各医療職も含めた多職種での専門的な支援も行っていますが、これからも、各職員が専門性を高めていけるよう研修や勉強会を通して、支援の充実にも努めていきます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17		1		合っていると思います。		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1			子どものことをよく観察していただき、過ごしやすいように計画されていると思います。		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17			1	先生方に、いろんな場面で声をかけて頂き困っていることをサポートして頂いています。		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	2			計画に沿った支援が行われていると思います。		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	2	1	1	様々な活動プログラムが組みこまれていて、考えていると思います。		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	1	2	3	海洋高校との方との交流は嬉しかったです。		
保護者への説	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18				入園前に詳しく説明を受けました。	毎週金曜日の親子保育時や、毎日の電子連絡帳でのやりとり、年3回の面談時を通して保護者の育児での困り感や諸問題に対して丁寧なやりとりを行ってまいりました。父母の役員とも連携しながら、保護者の皆様にとって有意義な情報の提供や、保	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18				入園前に詳しく説明を受けました。		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	2	1	1	情報提供もたくさんしていただきありがとうございます。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17	1			連絡帳にて毎日細かく、その日の様子を伝えて下さって助かっています。いつもの様子など、よくお話を聞かせてもらいます。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17		1		日々の連絡帳(ルクミー)でも助言をたくさんいただいています。年に何回か面談があり、とてもありがたいです。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1			話を聞いてくださって、一緒に対策を考えてくださいます。いつもありがとうございます。とても支援されていると思います。		

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	1	1	2	父母の会では、いろんな話を聞けてとても貴重な時間でした。クリスマス会も姉妹で参加出来て嬉しかったです。	護者間の繋がりを広げていけるように努めています。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	1		1	先生方や看護師さんに相談し対応してもらっています。		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	1					されていると思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15		1	2	連絡帳で詳しく行事予定や活動予定が書いてあり、分かりやすいと思います。		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16	2					されていると思います。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	1		1	例えば、津波が来た時の避難場所はこういったところで見れるか知りたいです。詳しく連絡帳などで説明しています。	保護者の皆様が安心して子どもたちをお任せして頂けるよう、感染症等が広がらないための事前対策や、災害時、緊急時での迅速な対応ができるよう、すびかだけでなくセンター全体でも取り組んでいます。今後は、各訓練（地震、津波時）に保護者の皆様にも参加いただいたり、各マニュアルの周知をより進めていけるように努めていきます。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	1		2	定期的にいろいろな避難訓練をされています。		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16		1	1	子どものことをよく見て下さり、十分な支援が行われていると思います。		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		2	入園前に説明がありました。		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18				機嫌が悪くなることもなく、いつもニコニコと過ごしています。	貴重な意見を頂きありがとうございます。保護者の皆様の意見を参考に、今後の保育や運営の向上に努めて参ります。子どもたちが安心して通園し主体的にやりとりしながら、様々な経験を積み重ねていけるよう支援していきたいと思っています。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18				嬉しそうに自分の部屋に行くので安心しています。いつも楽しそうにバスに乗り込んでいく姿を見て、私も嬉しくなります。楽しみにしています。		
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	1			いつも温かく支援して頂きありがとうございます。大変満足です。いつもいつもありがとうございます。満足しています。いつもありがとうございます。とても満足しています。		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター すびか				公表日	R8年 3月 30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20		グループの人数が減り、部屋中での活動がしやすくなった。 計算上は基準をクリアしているが、活動内容によって狭い場合があるため、遊戯室やグループの部屋を入れ替えるなどで工夫している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	17	3	今年度から子どもの人数が減り、一人一人に対してじっくりと関わることができた。また、グループ完結になったことで、着替えや排泄等細かい部分までアセスメントがしやすくなった。 写真付きの活動ボードや玩具棚など、子どもにも職員にもわかりやすくなっていると思う。 子どもの状態や活動内容等、職員の年休、急な休みがあった場合等は、グループから依頼、主任が全体調整しながら対応している。今年度は、全体把握できるボードを利用し、ヘルプ職員や、片付けのヘルプなども見える化して工夫を行った。	適切とは言い難い場面が多々ある。配置数に関して、意見の相違が施設内である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19	1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	18	1	静かな環境を好む子が多いすびかの子ども達とても良い環境に変わったと思う。	作られて20年以上の建物であるため、修繕・改修が必要な場所がいくつもあり、子どもたちと働く職員の安全のため改善を求めているが、実行されていない。予算の問題があると思うが、事業団をあげて計画に行ってほしいと思う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	18	2	絵本棚の位置を前にずらして、少しスペースを作っています。クールダウンできる場所になっています。	つきの部屋をクールダウンの部屋として使用している。時々発熱した子どもがつきの部屋を利用していることがあるが、できれば静養室での対応をお願いしたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	18	1		児発計画書の目標を常に意識して支援をしていくことが課題。 これまでやっていたことを「業務改善」として変更されることはあるが、明確な目標設定や振り返りは十分に行われていないと思う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	1	毎年事業所評価を実施。意見を踏まえて改善に努めている。	保護者向けの事業所評価を行っているが、出た意見に対する回答を一部の職員で行わず、複数の常勤職員が参加して対応を考えたり業務改善につなげることはできるとよい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1		新人も含め誰しもが意見を出しやすい雰囲気、環境作りが今後も大事だと思う。 幅広い職員からの意見が出やすい環境作りが必要意見を把握する機会と改善の頻度はR5年・R6年度と比べると少なくなっていると思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	19	2			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	1	支援内容のベースとなる分の作成ができた ことの意義は大きく、全職員が共通に理解し、伝えていけるように変更、改善していけたらよい。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20		新入園児のアセスメントとして、食事、生活動作、感覚面での保護者からのアセスメントと、聞き取り用のシートを使用している。 園児の状況によっては、多職種での聞き取りも実施し幅広い視点からの計画書作成を行っている。		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	18	2		嘱託職員に報告書や計画書が共有できていなかった。内容を見ていただく機会を作らなければと思った。 全職員に共有されていない。 計画に沿った支援を行う意識を全職員が持てるようにしていく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	19	1	新入園児のアセスメントして、全体のアセスメントと食事等のシートを使用しての聞き取り確認や医療的ケア、アレルギー等ある場合は各指示書を使用し、看護師と連携した聞き取りを行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	1		子どもたちの好きな遊びを中心に行っている部分があった。固定化してしまっている部分があったかもしれない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	3		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	2	15時以降、嘱託職員が帰るまでの間の時間で共有ができています。	バス乗車や会議等で職員がそろわない事もあるが記録ファイルを作成し、記入することで情報を共有している。 できていない日もあるため、振り返りの時間を確保したり、ノートなどを活用するといったのではないかなと思う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	1		記録として必要な内容（計画書の内容中心）を絞って、時間をかけすぎない工夫も必要
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19				
関係機関や保護者	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	19		児発管とG職員、看護師が参画している。	担当者会議は、グループ職員と児発管が出席しているが、児発管は1名に固定されている。担当者会議に参加できない職員がいるのは仕方ないが、会議録の共有がないのは改善が必要。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	18	2		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	1	次年度より、本格的に併行通園を行う。児発センターとしての役割を担う地域支援が必要となるが保育園、幼稚園の状況に合わせて対応が必要となるため、児発センターや併行を行う上でのメリットなど事前の情報共有、相互理解が求められる。	併行通園の実際として、メリットもあるが、デメリットの部分も大きい。その子どもにとってのねらいをしっかりと見極めた上で進めていくべきだと思う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20		学校との引継ぎとして、園児の様子見学と、引継ぎの時間を作っている。各支援学校書式に合わせた引継ぎシートの作成もしている。	特別支援学校の様子を知らない職員も多いので、交代で見学できるといいと思う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	13	2	自立支援協議会や児発管育成研修参加等を通して、各児発の状況確認や問題についての共通認識を持てるようにしている。	
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	15			今後は今まで以上に強化してほしい。	

との連携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	14		参加を通して、困りごと相談ブック改定の協議や各参加職員との情報交換、困りごとなどの相談に応じるなどの対応を行っている。	サービス管理責任者は参加できているクラスの保育士なども参加できるとよいのかもしれない自立支援協議会に参加しているが、その内容や取り組みについては一部の職員しか分かっていないと思う。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	20		小戸保育所、青島保育所との年2回の交流保育や榎地区社協と連携しての、宮崎海洋高校での交流イベントを行った。	今年度は、2グループのみ交流保育を行った。なぜ全グループが対象ではないのか、交流保育の定義など透明化させる必要があると思う。皆無ではないが機会が限られる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19	1		就労されている保護者に対して、「親子保育の日以外で来れる日に来てください」と伝えているが、来られることは少ない。「参観日」という形で必ず参加してもらいすびかでの様子を見てもらう、話をする日を作るのはどうか。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	4		毎週の親子保育を通してどの職員も保護者と話す機会がある。保護者の今の思いに触れ気持ちに寄り添いながら丁寧な支援を行っている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19		新入園児契約時に、丁寧な説明を行っている。今年度より、集団での説明会を実施した。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20		年3回の面談を行い、保護者のニーズ聞き取りや今の思い、子どもになってほしい姿などを共有している。子どもへの困り感や家での対応方法などについての助言等も行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20		今年度、保護者支援の活動として、保護者交流会、給食試食会を実施。年度の状況に合わせ父母の会役員と話しあい決定していくことこれからも求められる	夏祭りなどきょうだい児が参加しやすい行事を工夫しているが、「きょうだい児同士」の交流機会は明確には作っていないと思う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20		保護者からの問い合わせに対して、できるだけ早急な対応すると同時に、主任も含めた対応職員も所長と相談の上で対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	1		個人情報保護規定、重要事項説明の内容を職員で徹底する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	19	1		子ども自身が分かりやすいことを考えながら、工夫を行っている(実物指示と声掛けを合わせる、写真提示、簡潔な声掛けなど)保護者に対しても分かりやすい配慮をしながら対応している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	5		地域住民の招待はないが夏祭りに福祉施設の事業所の協力を得ている。幅広い地域住民の招待は難しいが、今年度は榎地区民生委員さん複数に、夏祭りに参加してもらうなど地域の方にも施設を知って頂く機会を作っている。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20		新入園児契約時に、緊急時対応(南海トラフ大地震想定)時のすびかが想定される状況説明と、避難時の動きについて説明をしている。	家族へ周知ができていないのか不明
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20			より具体的なBCP策定のために、訓練の頻度を増やした方がよい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20		入園時に看護師などに、必要に応じて医療的ケアの指示書を頂いている。	状況の確認は「事前」に行っているが、その情報が関係する職員に確実に伝わる体制はできていない。

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20		アレルギーのある児童に対しては医師より薬などの指示を指示書にて頂いている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	20			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		毎月ヒヤリハット事例を確認や事故報告書等の全職員共有を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19	1		研修は行っているが、実際の対応力にまでには至っていないように感じている。 委員会はあるが、ほとんど機能していない。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	19		座位保持椅子を使用する園児の利用方法については、残存機能を活かせるよう、安定した着座姿勢を保持するためベルト類を装着して身体を固定するが、集まり時、食事中、手指を使う活動等として、保護者や職員全体で確認をしている。	身体拘束をしていないので実例がない

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター すびか		
○保護者評価実施期間	R7年12月16日		～ R7年12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	R7年12月16日		～ R7年12月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 20名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア、肢体不自由児、対応の難しい園児等への受入ができる職員体制や多職種連携を含めた発達支援の提供	これまでの受入実績での対応方法について、職員の共通理解や情報共有体制をベースに、保育士、指導員、看護師が連携して対応している。また、状況に合わせて（作業療法士、言語聴覚士等）多職種連携を図りながら様々な事例への対応を行っている。	保育力の向上、充実を目標として、職員間の勉強会、研修などを行いながら職員のスキルアップを図る。 多職種でのスムーズな連携が図れるよう、実務者会議での課題把握と同時に、事例共有を通して職員の実践力向上に努める。
2	保護者から事業所への満足度の高さ	子どもが毎日安心感を持ち自ら通所を楽しみにできるよう、職員全員が、園児の思いを受容し、共感的に受け止めている。年3回の面談や毎週金曜日の親子保育時に顔を合わせながら、困り感への相談に応じたり、保護者間のつながりができるような保護者交流会等を実施している。	これまで、就学ガイダンスや卒園児保護者の話を聞く会、交流会を実施してきました。保護者の皆様の意見を聞きながら様々なニーズ（就学、防災、子育て支援等）に合わせた情報提供に努めたい。
3	今年度より、発達が気になる子どもや困り感のある保護者向けに親子支援を開始。未就園児（0～2歳）対象で診断や集団につながる前の段階で、あそび場の提供や保護者の相談に応じる機会ができたこと。	環境の変化への戸惑いが大きい子どもが、安心して過ごせて好きなあそびが見つかる遊び場の提供。 医療的ケアや肢体不自由児も含め、保護者の幅広い相談ニーズに合わせた支援体制。	月1回（年12回）から、月2回（年24回）へ回数増。新規利用者や継続利用したい保護者のニーズに合わせ、参加人数を5名へと変更して対応。 幅広い相談ニーズに対応できるよう、職員のスキルアップへの取組を実施。（研修や現場視察など）

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センター中核的機能としての、地域支援、地域移行を進めるために必要とされる併行通園等への実施	今年度、2件の併行通園を実施。地域の小学校就学予定児の保育所等との連携を行った。地域の保育園等に通いながら、早期支援を求める保護者のニーズの高まりを受け、より幅広い形での併行通園の方法を検討していく必要がある。	令和8年度より、1日最大5名までの併行通園の実施。新規で併行グループを作り、すびかでの地域移行に向けた支援展開の構築と同時に保育園、幼稚園との共通理解を図りながら、地域支援を進めていく。
2	南海トラフ大地震等の有事の際、地震、津波等の影響を大きく受ける地域にあり、対策がこれからも必要となること。	今年度、センター全体で被災後の動きについての机上想定訓練を行った。地震、津波想定でのセンター2階、屋上への速やかな垂直避難訓練と合わせて、被災後想定される動きについてセンター全体で共有を行ったが、マニュアルの改訂が必要。	被災後、津波が引くまでの間（約1日間程）想定される動きとして、保護者連絡、利用者対応、避難所設営、備蓄の状況等の課題を共有し、全職員が共通理解を持ちながら対応できることと同時に、保護者の方も被災後の動きをイメージできる取り組みも実施していきたい。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターすびか（保育所等訪問支援事業）		
○保護者評価実施期間	年 月 日 未契約のため無し		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通所、診療、相談と各部署に多職種が在籍しており、子どもの発達や家庭支援について、多方面から整理し、助言ができる体制があること。	今年度は、保育所等訪問支援事業としての契約はなし。	子どもや保護者のニーズ、園の意向を確認しながら、必要に応じて多職種と訪問する機会を設け、より実践に結びつくアセスメントや支援の方向性を探るよう努める。
2	これまで、巡回支援専門員整備事業や障がい児等療育支援事業を通して施設支援を実施しており、保健師や特別支援学校コーディネーターとの連携が図りやすいこと。	今年度は、保育所等訪問支援事業としての契約はなし。	特に就学前の子どもに対しては、関係機関との連携を強化し、子どもや保護者、園が安心して就学を迎えられるよう支援を行う。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援事業自体の実績件数が少なく、ノウハウの蓄積が十分ではない。	今年度は別事業の開始と重なり、保育所等訪問事業の広報を積極的に行えていなかった。契約に結びつかなかったケースも、施設支援で継続支援を行った。 地域支援に必要な人員の確保。	外部研修や他事業所の取り組み例も参考にし、実践を積んでいく。
2			
3			